

今年も暑い日が続いています。熱中症や脱水症状にはくれぐれも気をつけて、薬剤防除など作業を行う際には、こまめな休憩と水分や塩分の補給を心がけましょう。

## 果樹全般

### ●果樹カメムシ類

ニュース等で報道されているとおり、本年はチャバネアオカメムシをはじめとした果樹カメムシ類の発生が本県を含め全国的に多いです。昨年発生した成虫は、8月上旬くらいまで生存して、その間に山林のヒノキ等の毬果を吸汁し、そこで産卵をします。新世代虫はヒノキ等の毬果を餌として成長し、成虫は8月中下旬以降に発生し始めます。旧・新世代虫の吸汁によりヒノキ毬果は餌として不適となると果樹カメムシ類は園地に飛来します。ただし、飛来量・飛来時期は地域によって異なることから、こまめに園内を見回って飛来が確認された場合は、早急に薬剤による防除を行ってください。

果樹園近くのヒノキやスギなどの毬果もカメムシ類の餌となるので、防風樹として使用している園では、毬果が結実している部分は早急に刈り込んで除去してください。

## 露地カンキツ

### ●褐色腐敗病

本病は土壌中に生息する病原菌が雨滴等によって跳ね上がり、果実に付着することで感染・発病します。本病が発生したことのある園や排水の悪い園では特に注意し、以下の対策を徹底してください。

#### ① 枝吊り

下垂枝の枝吊りを行い、地表面から離すことで果実への感染を減らすことができます。

#### ② マルチの設置

土壌の跳ね上がりを遮断するため有効な対策です。ただし、マルチが剥がれる等していれば意味がありませんので、日ごろから園内の点検を行うとともに、台風等の強風雨前にはマルチが剥がれないよう対策を行ってください。

#### ③ 伝染源の除去

発病した果実を樹上や園内に放置すると伝染源となり発生が拡大するため、必ず園外に持ち出して処分してください。

#### ④ 薬剤防除

黒点病の防除も兼ねてマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）を散布します（※両薬剤とも、温州ミカンは400～600倍・収穫30日前まで、その他カンキツ類では600倍、・収穫90日前まで、使用回数は4回以内）。かけムラがないよう丁寧に散布しましょう。

#### ●かいよう病

本病は台風等の強風雨により発病が助長されます。台風等の襲来が予想される場合には、本病にかかりやすい品種（中晩柑類、高糖系温州）、温州ミカンであっても、昨年本病が発生した園、風当たりが強い園、幼木や高接ぎ園では、表1を参考に薬剤防除を徹底してください。台風後の散布では、防除効果が劣るため、銅水和剤の場合は、襲来7日前～前日まで、抗生物質剤の場合は襲来3日前～前日までに散布を行います。

なお、ICボルドーは高温期に使用すると、薬害（スターメラノーズ）が発生する恐れがありますので、結実樹での使用は控えましょう。

ミカンハモグリガによる被害痕は病原菌の侵入口となるため、新梢伸長期～硬化期には同害虫の防除を徹底してください。

表1 かいよう病対策に使用する薬剤の例

対象	薬剤
・中晩柑類（佐賀果試35号除く） ・温州ミカン（高糖系温州、昨年かいよう病が発生した園、風当たりの強い園、幼木園など）	クレフノン200倍加用クプロシールド1,000倍、 クレフノン200倍加用コサイド3000 2,000倍など
・佐賀果試35号 結実樹 （かいよう病の発病がある園）	クレフノン200倍加用クプロシールド1,000倍 または バリダシン5 500倍
・佐賀果試35号 結実樹 （かいよう病の発病がない園）	バリダシン5 500倍
・佐賀果試35号 未結実樹	アピオンE 1,000倍加用ICボルドー66D 60倍 または アピオンE 1,000倍加用ICボルドー412 50倍

#### ●害虫全般

8月はミカンハダニやチャノキイロアザミウマ、ミカンサビダニ等複数の害虫の防除が必要となります。表2を参考に対象とする害虫に効果のある薬剤を、かけムラがないよう丁寧に散布してください。ミカンハダニを防除する際は、低密度時の散布を心がけ、薬剤抵抗性の発達を防止するために同系統の薬剤の使用は年1回のみとし、昨年使用した系統の薬剤は使用しないでください。

表2 露地カンキツの害虫対策に使用する薬剤例

対象害虫		薬剤名	希釈倍数
チャノキイロ アザミウマ	+ミカンサビダニ	コテツフロアブル	4,000倍
		マッチ乳剤	3,000倍
		ハチハチフロアブル	2,000倍
	+カイガラムシ	モスビランSL液剤	2,000倍
		ダントツ水溶剤	2,000倍
	+カメムシ	アルバリン（スタークル）顆粒水溶剤	2,000倍
テルスター水和剤		1,000倍	
ミカンハダニ	+ミカンサビダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000倍
		ダブルフェースフロアブル	2,000倍
		メビウスフロアブル	2,000倍
ミカンハダニのみの場合		コロマイト水和剤	2,000倍
		カネマイトフロアブル	1,000倍
		スターマイトフロアブル	2,000倍
		ダニコングフロアブル	2,000倍

### 施設不知火

#### ●汚れ果症

施設栽培の‘不知火’では、赤道面から果頂部に集中して黒点症状を生じる「汚れ果症」が問題となります。本症状は、高湿度条件で発生が多くなるため、換気などの湿度対策を十分に行ってください。また、薬剤防除ではマンゼブ水和剤 600 倍が有効です。露地栽培の黒点病防除と同様に、前回散布から累積降雨量 250mm または散布後 1 カ月を目安に散布すると効果的です。

### ナシ

#### ●黒星病、炭そ病

‘幸水’が植栽されている園では、収穫前の果実の薬液汚れや収穫前日数に留意して、アミスター10フロアブル 1,000 倍やストロビードライフフロアブル 3,000 倍を散布します。

‘幸水’が植栽されていない園では、収穫 14 日前まではオキシラン水和剤 500 倍、オーソサイド水和剤 80 800 倍等を散布し、それ以降は果実の汚れに配慮してアミスター10フロアブル 1,000 倍を散布してください。

収穫後にはデランフロアブル 1,000 倍を散布します。その際、周囲に収穫が終わっていない園があれば、薬液が飛散しないよう十分に注意してください。

炭そ病については、7月号に詳細を記載しておりますので、そちらも参考に防除対策を行ってください。

### ●ナシヒメシクイ、ハマキムシ類

両害虫対策として、収穫まで7～10日間隔で殺虫剤を散布します。テルスター水和剤1,000倍（収穫前日まで、‘幸水’は汚れに注意）、スカウトフロアブル2,000倍（収穫前日まで）、アグロスリン水和剤1,000～2,000倍（収穫前日まで、‘幸水’は汚れに注意）等の合成ピレスロイド剤を散布しましょう。アルバリン（スタークル）顆粒水溶剤やモスピラン水溶剤などのネオニコチノイド系剤は、ナシヒメシクイには効果がありますが、ハマキムシ類に対しては効果が劣りますので薬剤の選択には注意してください。

### ●ハダニ類

ハダニ類の発生が多い園が散見されます。ハダニ類の発生がみられる園では、コロマイト水和剤2,000倍、カネマイトフロアブル1,000倍等を散布します。発生初期の防除が最も効果的なので、収穫後でもこまめに園内の発生状況を観察し、発生が認められたら早急に防除を行ってください。

### ●フタモンマダラメイガ

8～9月にフェニックスフロアブル4,000倍を主幹、主枝に対して十分量散布します。スピードスプレーヤーでは主幹・主枝への付着が劣るため、できる限り手散布で対応してください。

## ブドウ

### ●べと病

本病の発生が多い園が散見されます。本病は一度発生すると抑えるのは困難となるため、発生前からの防除が重要です。薬剤はボルドー液（ICボルドー48Q、66D）50倍を使用し、散布間隔は20日以上空けないようにします。また、散布の際は展着剤のアビオンE1,000倍を加用してください。

## モモ

### ●コスカシバ

8月上旬から9月上旬にかけて、コスカシバ若齢幼虫の幹への侵入が多くなる時期です。

ガットサイドS 1.5 倍を葉にかからないよう注意して樹幹部および主枝に塗布してください。

## カキ

### ●炭そ病

8月中下旬頃から果実に炭そ病が感染しやすくなります。マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）500 倍やマンネブ水和剤（エムダイファー水和剤）500 倍を散布して果実への感染を防ぎましょう。散布後は累積降雨量 150～200mm または 20 日経過を目安に再散布を行います。なお、マンゼブ水和剤およびマンネブ水和剤について、同有効成分を含む薬剤の使用回数はそれぞれ 2 回までとなっています。総使用回数に達している場合は、ストロビードライフロアブル 3,000 倍等を散布してください。ストロビードライフロアブルでは累積降雨量 100～150mm が再散布の目安となります。

軟弱徒長した夏枝は炭そ病に罹病しやすく、果実への伝染源となりますので不要な徒長枝は必ず剪除してください。

### ●うどんこ病

本病は早期落葉の原因となります。発生が認められたら、ストロビードライフロアブル 3,000 倍（収穫 14 日前まで）やトリフミン水和剤 2,000 倍（収穫前日まで）等を散布してください。